

廣益比滄抄

十六

卷之六
花木類
草花類
三十九種
花形色狀

內閣文庫

番號 和 27737

冊數 20 (17)

函號 199 380



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak 2007 TM: Kodak



廣益地錦抄卷之八

花本草卷三十九

白深

源氏木栲

熊苦栲

海棠前

桃色栲

見掃草

唐紫陽

朝鮮宮木

烏菴

果若蒙

子奉鈴

冬暖栲

黃棟樹

約壇宮木

巨泉花

矢車菜

卷之八

一

豆莢 タケノコ

釣鐘蔓 フリカ子カツラ

蔭麻草 カシノ

後輪 フクリ

花忍 ハナニ

筋 スベ

蝦 エビ

白花 ハクハナ

草橋 クサハシ

筋葛蒲 スベ

鬼百合草 オニユリ

尺二 シツニ

あごらん アゴラン

白菘 シロカブ

白八 シロヤチ

物群 モノグン

折入 オリイ

替人 カグヒト

老草 オウソウ

枯百合 カレユリ

江戸 エド

仙 セン

珍 メダカ

志 シ

廣益地錦抄卷之八

花本類

源氏 ゲンジ

熊若 クマシロ

花小 ハナコ

らん ラン

さき サキ

てい テイ

ひ ヒ

り リ

ま マ

く ク

よ ヨ

ひ ヒ

ち チ

を ヲ

し シ

卷之八

小玲母うるてと花
多くくさくを葉を

冬候はド ふゆまき くれ乃

あふん一門ふ十
余らんをのりさ
を柘有花乃花ふ
ゆりまこいまんけの
ふか母ゆら出まん
けつトせりふ葉も夫
さく細あぐくうらふ

らくさうふ中乃て
やふたりとてふま
久柄といふう花乃
魁といふふけりそふ
さうふ柄てうく
うてを葉をどー

足力り葉 葉乃名 わりて葉

にわく久本ふとわら
と徳花乃本ふゆく
あとしてまりの葉ふ
にりあ對ふ付ふの

の葉ははくま二月
しうふかおほくさ夫
あがめとすねりま
林乃と久十月はふ
冬のうら花さくを牡
丹と同樹まふか咲く
めづーくかあふ
どうるてをどべー
海棠前 かいぼうぜん 花は柄のこ
うと紅乃をうふん
のこありてうう

乃あのをふあふ
がふ二二寸分はふ
魚鱗りにり鱗
乃乃りも乃どく
すの花ふ多く出
うと紅をそ合欵
乃花ふにり葉乃
ちくよりけふつ海
とせくふ月ふ園
黄棟樹 おうとうじゆ 木は葉も巨
は葉はてこの

く海棠花のどく一
可よまふまぐひらき
ておがめふと四月花

桃也松楊 うとひらさ

さよりの紅をちよひ
とくちしひまをちよひ
花ざくろひに枝あり
のふおせんう。白せん
う。黄也せんやう
ゆきとくちをちよひ

朝鮮空木 二二三尺を

ちよひの空木をちよひ
実乃ち空木をちよひ
ふ空木もふ空木をちよひ
は空木の空木をちよひ
て下へさうりて楊梅
乃ち空木をちよひ
すも空木をちよひ
み又空木をちよひ
あり

乃小樹也

つとく 珍貴の物も
六月より花ひらき
唐は蒸陽 本と蒸陽

似たりとふあらし
いは少くはく花枝
かそそそそそそそ
り 蒸陽とらてむら
くゆい 蒸陽とも云
六月より花ひらき
拂屋を空木をちよひ
すも空木をちよひ

五泉花

つとく 花白小つとく
一ちよひをちよひ
つとくをちよひ
くらひをちよひ
花をちよひ
うをちよひ
人さすも本へ空木
横とく枝葉をちよひ
て花をちよひ
らくとくをちよひ

てわひとましく生きたる
 一してはり
 約鐘室本 本を白
 乃びそらて校おひ
 いづる葉をほく下此
 葉よりゆくまより
 四月ふかき花れ給
 とふせふあかすらに
 て一所丹ニツらんづ
 さりりて知るる花の
 色をすり白く本もと

てうしあふた所ハ
 おし新丹う人あそ花
 ぬ葉黄ましくそ花
 葉より色花れとも
 不墨い骨小給と
 花と似たり初人ハ
 切らかりゆくとそ花
 けらかり海縁へ花れ
 物花乃らうらまを花
 のう老くくかも葉も
 比りあく花葉上

てうとましく生きたる
 一してはり
 乃びそらて校おひ
 いづる葉をほく下此
 葉よりゆくまより
 四月ふかき花れ給
 とふせふあかすらに
 て一所丹ニツらんづ
 さりりて知るる花の
 色をすり白く本もと

へけり立ると又地へ
 玉どれ直泉花を花
 花れ格校乃らうらまを
 花のうごの花も葉
 色直丹キらまをう
 古トへまど直丹水茶
 まくいとだうかガ
 めあの一各直人花
 ともいふ
 智教 本へ丈まぐに
 のびるの葉も
 入まう六月もれさく



源氏物語
源氏物語

四季ともに不凋落
あり初秋乃よりよ
深冬乃中乃ち
白のつゆよくあめを
を連より新より入
て電考より一を本
かまりて物
千代錦 岩根より美
あまにほくゆる夏の
うら花物とたふさ天よ
きくぬ小葉より花ハ

花取友小ゆる一所
みちあり下へさかり
てゆく花乃を極
白く名のどく切花
あてはより一各
あつうぶといふ
夫車草 岩根より
梅乃葉小ゆる一葉
又葉つ出て捨紋乃
夫車小ゆる一葉
白く六七月小ゆる花



大葉の
花

大葉の
花



大葉の
花

大葉の
花

大

見之草



海棠莉





唐あじさい



あじさい

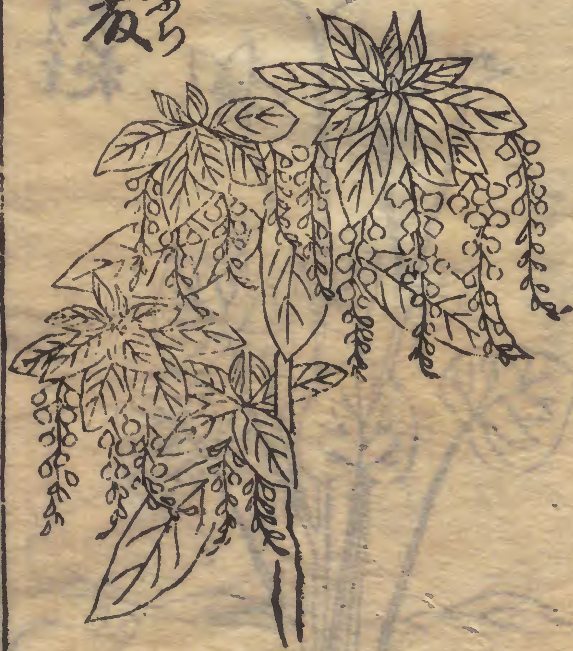
約り障子



黄棟り樹子



多岐
友



とら
ふ
り
し
り





早岩菜
カハヒマコウ



立泉花
アヲクサノハ

せんり
子木珍



ハ
クマシラウ
矢車草



卷十六

植物

廿二

五葉いつば
菜



蔭麻うすま
子こ菜さい
苜蓿むく
菜さい
だるまだるま





西義わらわ

卷十六

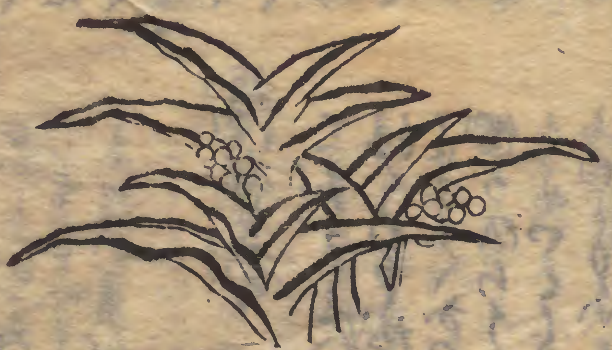
五



ろ子ろ
約澄蔓

卷十六

五



うきんかどし
萬年輪

しんぎのぞ



わづかに似くらひく
遊竹ひくくゆうひん
へくひくく事く
かかどむくはま
へてはく花散れり
後く物に葉細長く
毛れくくひひま
有る矣然るらむ極く
あがめり
後論ありと 葉れ
此可幸きなり衆

葉をかめありて
て葉とべい葉ハ
葉の鬼何あり
藤原の菊 葉を丸
て葉うくはむか
ほくわを捨てあつ
よくくあつと毛
櫻うひらうどれが
くわやうらに夏
あふもふあがら

乃まより白く葉の
あくるんせりあり
みくくすり古葉
ありとくくぬあり
とくありとく葉乃
中れはくくあり白
ゆありて冬林あり
くありはうす白くか
くろ葉柄ハ葉れあり
叶白く冬冬かりん
根白くありくあり
くかめり

八九月よりあそく
花形をひくくの菊
くくくくくく
これおほくくあ
あり遊年よりま
うりきくの葉あふ
くありくくくく
生りてをはく連塵
きくくくくく
ま草とくく
根を葉ふく
かそくくく

葉

葉

約種蔓

紫ハ冬ヲ
蔓ハ夏ヲ

てふ見んかたはと
く竹よりくみく花
理りうへ所みうを
そかめと寸花ハ花の
さら一雨母七八枚づ
さうりて咲花乃あり
うとね色内ハ今紫
地乃紫とく四月はひ
と花形ありくく
巻之二

又背令紫花根乃と
く初去母紫と紫又
六寸やうの小草なり紫
花ありひ乃紫み似く
一茎に三紫つく物
う色は花うくく紫
三枚ありとまき一
小花三出みうくまの
色ゆる二月とより
ゆりくくささのすり
さらすり小折小枝て
う

花意

紫ハ小葉の
紫ハ小葉の

のくく小葉の
いふと花とより
四月と花はより花
紫くくくをひらさ
き小つらん不出梅花
乃おとく一所又多
咲てあがわくを咲
小つちかて八九月
花さく枝くく紫
又白花ありと二枝

紫葉白昌

花形子
れわわ

乃おとくく紫花
中ノ小名白紫花
花より雨よりてお
がんとすりノ長乃
あゆまきとま白
紫とかりり云の
くくくをひら
さ花紫色は枝乃
わわ乃おとく月
うひらく



写花

卷六

十九



銀水

卷六

十九

五



花
 菖蒲
 花
 菖蒲

花
 菖蒲

花
 菖蒲

五



花
 橘

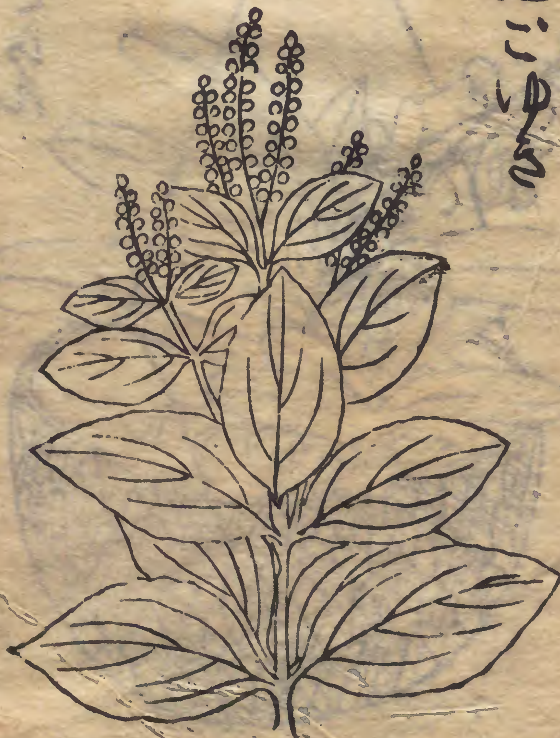
花
 橘

花
 橘

Handwritten mark at the top left of the left page.

Handwritten mark at the top right of the right page.

尺百合草



尺百合草
尺百合草



尺百合草

尺百合草



きんぎょ
草



かこらん

朝鮮松花



卷十六

七

白八重松花



卷十六

九

うん
すい
すい
ゆり



卷十六

五

あ
り
ま
ま
の
り
ん
が
な



卷十六

九

五
どさく
江戸花
松本せんわうり



● 卷第六

七五

たいへん
大平山ゆり





秋咲きゆり

卷二十一

七六



せんざいがんこ

卷二十一

七三

す
あり
秋瓜



花
に
や
ら
ぬ
あ
ま
り
こ



銀水ギンスイ 葉ハクハクヒヨクモ
葉ハクハクヒヨクモ

どふふ海濱の草花
その葉を干しにかがめれば
その花の色をかくれば
紅くくすまの八月
さく又かかめまはれま
とも海根を云そり葉
小ふまましくめつ
と地根ありて云花を
白赤ありてとく火
又花を干しとより根

寫花ウツハナ 一花わと花も又
つるをよもり花

花をよもりつらのか
まらりよもり花
どしあはれがまらり花
花をよもりつらのか
りりて繪具とてこん
せうの走と繪と紙
出て花をらちやま
あふあひひておの
地下法と云おの
さねらりて花をよ

冬久あひてまける
花と繪とともくそ
とまける

草標クサヒラ 葉ハクハクヒヨクモ
葉ハクハクヒヨクモ

又花をよもりて花
花をよもりて花
らとくかやよま茎の
くらふ花まらあま
アひくく月末の
さうりかがめまはれ
てあひまはり

葉菅エハス 葉ハクハクヒヨクモ
葉ハクハクヒヨクモ

花をよもりつらのか
く月末の
葉菅

見百金草 葉の丸く

さく草のひらひら
すねのふき花の
六か横へひらひら
ゆりふらふら
ゆりのふき花の
此根のびくまき
かまき月印

かこ葉 葉の丸く
さく草のひらひら

花よりあつたり
花よりあつたり
花よりあつたり
花よりあつたり
花よりあつたり
花よりあつたり
花よりあつたり
花よりあつたり

見百金草 葉の丸く
徳の二二二
葉の丸く
花よりあつたり
花よりあつたり
花よりあつたり
花よりあつたり

ふして花をさす
おとく花をさす
おとく花をさす
おとく花をさす
おとく花をさす
おとく花をさす
おとく花をさす
おとく花をさす

朝鮮松 葉の丸く
朝鮮松 葉の丸く
朝鮮松 葉の丸く
朝鮮松 葉の丸く
朝鮮松 葉の丸く
朝鮮松 葉の丸く
朝鮮松 葉の丸く
朝鮮松 葉の丸く

かぎりわとをまり守る意
おそく冬をわたり
に合せしむる花のうら
キと小春くを氣に
ふせくへし葉葉乃指
やうやくうしとあわ

六月末はひく
おへ松が かねの松
此松と人の心へ籠まら
ておへてあまはく
にあらかりと花を

かぎりわく去前より
己葉乃也思知久小
て葉大さくわのく後
と葉表まううと葉
紅也わのわまう葉
乃つわとと思知久小
て寤てな知又思知久
籠あけく大かん月候
白守松が かねの松
此松と人の心へ籠まら
ておへてあまはく
にあらかりと花を

六月はひく
おへ松が かねの松
此松と人の心へ籠まら
ておへてあまはく
にあらかりと花を

と人の心へ籠まら
ておへてあまはく
にあらかりと花を

びく、白く花中に其病
 あり如紫は（か）もあり
 横へ（こ）じさそ困つては
 ゆりの六月中のみさ
 二、三、七月中にのみさ
 てめつし
 花散るひ
 仙（せん）甚（しん）懼（く）子（こ） 三人中
 うとむつては又せき
 りのたよりすこし
 かつたてあひし
 花乃まづりよ（はな）乃（の）

飾るそ黄、白、お、
 限にあり六月用のほ
 空（あ）掃（そ）花（は）お（お）け（け） 松（しょう）かせん
 白花ふつと如のさ
 けりさつとれさ
 さのりとしひ入りも
 て去りし公を掃乃
 花れさつとれさ
 ありあの六月のみさ
 去りてまう（き）夢（む）地（ち）
 致（し）凡（ぼん）に（に）あ（あ）て（て）ま（ま）び（び）又（ま）ら

花散る付六月のみさ
 仙（せん）奉（ほう）り（り）き（き）ひ（ひ）き（き）
 花赤（は）甚（しん）懼（く）子（こ） 三人中
 てしむまればおし
 紫文より花乃まづり
 小（こ）白（はく）く（く）あ（あ）つ（つ）ん（ん）と（と）り
 卒（そつ）る（る）と（と）悔（かい）つ（つ）て（て）候（こう）
 大（だい）つ（つ）ん（ん）と（と）り（り）き（き）ひ（ひ）き（き）
 花六月のみさ

竹（たけ）ふ（ふ）つ（つ）て（て）ま（ま）ら（ら）の（の）お
 る花散るふ能乃どく
 花れさつとれさ
 林（りん）檜（げん）乃（の）掃（そ）乃（の）掃（そ）乃（の）掃（そ）
 水（みづ）女（め）母（ぼ）乃（の）掃（そ）乃（の）掃（そ）
 種（たね）く（く）竹（たけ）ふ（ふ）つ（つ）て（て）ま（ま）ら（ら）
 付（つ）か（か）ら（ら）あ（あ）つ（つ）て（て）ま（ま）ら（ら）
 色（いろ）も（も）ま（ま）つ（つ）て（て）ま（ま）ら（ら）
 白（しろ）き（き）掃（そ）乃（の）掃（そ）乃（の）掃（そ）
 黄（わう）也（え）味（あじ）乃（の）掃（そ）乃（の）掃（そ）
 時（とき）花（は）乃（の）掃（そ）乃（の）掃（そ）

東武江北深井

撰著
自圖

伴共備

享保四年 亥仲春

武江日本橋南一町目

伴原甚次兵衛用板

李

庫	文	閣	内
九	三	二	和
九	七	二	書
函	二	七	類
一	〇	七	
八	冊	號	
架			